

ドコズンドコ！ 小林〈3〉

関野 唯 (イラストも)

ちゃんからお聞きした範囲で、行商の様子について紹介していきたい。

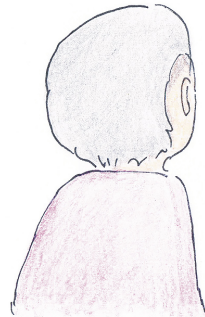
第1回にも登場していただいたチヨさん(仮名)は池袋へ行商に通って50年になるベテランだ。チヨさんのお若かった頃、現在バスターミナルや広場になっている池袋の駅前には長い飲み屋街があった。暗くて一人で通るのは心細いその道を、チヨさんは池袋で行商をしている友だちと一緒に歩いた。飲み屋街を抜けると、それぞれバスに乗ったり、電車に乗り継いだりして別々の持ち場に向かってゆく。チヨさんの持ち場は池袋駅のそばだ。

池袋駅といったら現在は高いビルやお店が埋め尽くされている都会の街だ。この街のどこか、おばちゃんが行商をしているのか不思議に思ってしまう。しかし戦後の駅前には、「しもたやさん(お金持ち)」が住む木造2階建ての家が多かった。パブルを機にその多くが家を壊してマンションを建てたり、土地を売ってビルにしまったため、「残っている家は何軒よ。『おばちゃんお茶飲んだ。』

もないよ」とチヨさんは言うが、それでも現在は池袋に住む昔からの顔なじみのお客さんのもとへ、チヨさんは通っている。

チヨさんが池袋の町並みをカゴを背負って歩いていると、街の人の方から声を掛けてくるのだそうだ。「おねえさん、何持ってるのー?」チヨさんが「私〇〇あんのよ」と答えると、「じゃあうちそこだから寄ってよ」という具合だ。それでも毎日通うのは大変ですよねと私が伺うと、「大変なんて日はない。キュービッドでもあるよ。」

また、こういったお客さんとのお喋りの中で、行商のおばちゃんが男女の縁を取り持つことも少なからずある。行商のおばちゃんには、都市と農村をつなぐ恋のキュービッドでもあるよ。」



小林地区に長年住まわっている方でも、行商のおばちゃんを駅や電車内で見かけたことはあっても、実際に商売をしている姿は見たことのないことが多いようだ。行商の本当の姿は、謎に包まれているのである。

今回は、私が行商のおば

行商のおばちゃんは、都市と農村をつなぐキュービッド